

がん研有明友の会 会報

# 有明の風

第56号

2023年2月10日発行



福寿草

## がん研と友の会とともに

がん研有明友の会 理事  
岡部 祥一

約6年前、がん研健診センターの検査後、すぐに泌尿器科の山本先生を紹介され、約半年間のさまざまな精密検査後にロボット支援下手術を受けました。入院中は、同室の方はみな、がん患者で心強さを感じました。看護師さんたちも術後の回復にあわせて患者の自立を促し、予定通り10日間で退院。退院後1ヶ月で職場復帰ができました。一人一人、がんの個性も、生活の状況も違う中で、本当に親身になって診察、治療、看護、そして相談にのっていただいたドクター、看護師さんに感謝しています。

さて、がん研有明友の会は病院の院長、副院長、看護部長、総務部長だった方々にも副会長、理事、顧問等になっていただき、会報、講演会でがん知識の啓発や、寄付を通じてがん研究、がん医療を支援することが目的の会です。

たとえば1階ロビーのエスカレーター下にある飲食できるテーブルと椅子にがん研有明友の会のシールが貼られています。友の会の会費の一部である寄付金が目にみえる形で、患者さんの役に立つものに使われています。また入院患者さんの点滴台にも友の会の寄付が使われています。

他のがんセンターは全て国立で、国の費用で運営されていますが、がん研は洪沢栄一以来、民間の寄付で設立され、がん撲滅という使命のために熱をもった先生、看護師のみなさんが運営を続ける病院です。2021（令和3）年の病院運営実態分析調査の概要（一般社団法人 全国公私病院連盟）によれば全国の病院の23.1%が「黒字」、76.9%が「赤字」となっています。がん研は研究所も抱えての運営なので、がん研にとって寄付は大切なものです。全国から集まる患者さん、日夜がん克服のため頑張る先生や看護師さん、アットホームな雰囲気のがん研を友の会のこちらからも働きかけ、少しでも支えていければと思います。

がん研病院に通う患者さんたちは、抗がん剤治療等で免疫力が弱っている方も多いため、コロナ禍では、感染対策はきちんとしなければいけません。いずれピークアウトしたら、友の会のセミナーで先生方からがんに関して教えていただいたり、総会等でみなさまともお会いできることを楽しみにしています。友の会の会員として、病院と一緒にがんに立ち向かっていきたいと思っています。

## 友の会理事会を3年ぶりに開催いたしました

2019年12月末に発生したコロナウイルス感染症により本会の活動も制限されていましたが、ようやくコロナと共存する意識啓発に基づき、昨年12月7日(水) 渡邊会長の地元銀座交詢社にて、第2回理事会を理事・監事14名中9名の出席のもと開催いたしました。対面での理事会が久しぶりであったため、議事承認後、各々の近況報告を行い終了しました。

会員各位におかれましては、友の会の状況がわからないままに過ごされていたことに深くお詫び申し上げます。以下、議事に則ってご報告いたします。



### 報告事項

#### 1) 友の会会員状況

2022年度11月末日現在 868名(継続・再入会777名、新規入会者91名)  
 コロナ禍により院内インフォメーション活動ができませんでしたが、健診センター・医事課経由のチラシ配布により新規入会者は大幅に増加しています。

#### 2) 各委員会報告

- \* 総務委員会：令和4年度上半期収支決算報告について説明。収支見込み額592万円に対して例年の推移を勘案すると、財政的には何ら問題なく経過しているとの報告がありました。
- \* 企画渉外・広報委員会：厳しい環境の中、年4回の会報発行を各委員の努力で継続しています。この会報を通じて会員の多くの皆さまから励ましの言葉を頂いています。また、入会パンフレットの増刷により入会促進を行います。
- \* 友の会会員相談：会員の方からご相談があれば内容確認後、中継ぎとして病院側から本人に連絡していただき、手続きを進めるようにしています。

### 議事

- 1) 会報をホームページに掲載する件については、議論の結果、会報発行3か月後に掲載することになりました。

### ボランティア支援室より 「御礼」



8月～10月まで飾付したカラフルな提灯飾り

トータルケアセンター 患者・家族支援部 ボランティア支援室 室長  
 ボランティアコーディネーター/社会福祉士 柴田 かおり

いつもボランティア活動へ温かいご支援をいただき、ありがとうございます。コロナ禍で迎える3度目の冬となりましたが、今年度よりボランティア支援室では季節の飾付を毎月行い、患者さんやご家族、そして職員にも季節の風を感じていただきたい、と工夫を凝らしております。

昨年度、友の会の皆さまからご寄付をいただいたことがきっかけとなって季節の飾付を企画いたしました。七夕以降、病院1階の吹き抜けスペースも利用して、初めて夏祭りとお月見の飾付を行い、その後ハロウィン、紅葉、クリスマス、お正月と季節ごとに色鮮やかな飾付で院内の雰囲気をも明るくできるように努めています。

毎月来院される患者さんからは『来るたびに飾りが変わって楽しみにしています』、ご家族からは『医療を受ける側の気持ちに寄り添っていただける病院だと感謝しています』とお言葉をいただきました。また職員からも『病院の中では呼出受信機やスケジュール表を確認して下を向くことはあっても上を向く機会はないので、飾付を見るために上を向く、この“見上げる”という動作だけでも気持ちが変わりますね。』というメッセージも届きました。

ボランティアができることは限られておりますが、楽しみながら取り組んだことがどこかでどなたかのお役に立つことができていると思うと、活動を継続する力に繋がります。

最後になりましたが、今年度も友の会の皆さまからご寄付をいただき、誠にありがとうございました。今年は新たに節分の飾付を行う予定で今準備中です。節分の飾付で沢山の方に笑顔をお届けしたいと思います。

# 腫瘍循環器・循環器内科について

がん研有明病院 腫瘍循環器・循環器内科 副医長 福満 雅史

## ●腫瘍循環器とは？

「腫瘍循環器」とは、がん(腫瘍)と心臓や血管の病気(循環器)の両者が重なった領域を扱う、新しい診療分野です。これまで腫瘍学と循環器学は、互いに遠い位置関係にあると考えられていた時代もありましたが、がん治療の急速な進歩によって、がんの予後が改善し、一部のがんでは、がん再発ではなく、心臓病や血栓症といった循環器疾患の方が問題となるケースが多くなってきました。また、抗がん剤などの化学療法や放射線治療は、がんに対して有効な治療効果を発揮する反面、時に心臓に傷害を及ぼしたり、血管内に血栓を作ったりすることもあります。がんの治療中に伴って出現した心臓病や血栓症は、その後のがん治療の継続に多大な妨げとなり、がん治療の中断を余儀なくされることもあります。結果的にがんの予後に悪影響を及ぼす場合もありますので、早い段階から、心筋保護や血栓を溶かす治療を始める必要があります。



その他にも、がん治療が進んだことで、ご高齢の患者さんにもがん治療を行う機会も増えてきました。がん患者さんの高齢化が進み、心不全、心筋梗塞、不整脈(心房細動など)、高血圧など、もともとがん以外に心臓や血管の病気を合併している方ががん治療を行うことも珍しくありません。がん治療が始まることで、これらの循環器病が悪化してしまう可能性もありますので、循環器的なモニタリングを行いながら、がん治療を行う必要があります。

このように、がん診療において循環器医に求められる役割は大きくなってきています。比較的歴史の浅い診療分野ですが、2000年に、米国テキサス州のMD アンダーソンがんセンター(Anderson Cancer Center)で、腫瘍循環器外来が設立されて以降、がん領域における循環器診療の重要性は高まる一方です。わが国でも多くの医療機関で腫瘍循環器外来が開設されており、2017年には、日本腫瘍循環器学会が設立され、がんと循環器の双方の専門家が連携して、より質の高いエビデンス収集に向けた議論の場が作られました。2022年8月には、欧州心臓病学会より、腫瘍循環器領域において初めての診療ガイドラインが発表されました。腫瘍循環器の重要性が高まっている中、体系的な診療ガイドラインをもとに腫瘍循環器領域の診療を行うことが可能となり、より質の高い均一な医療を提供することが可能となりつつあります。

## ●腫瘍循環器の診療

がん研究会有明病院腫瘍循環器・循環器内科では、循環器専門医が、主に以下の面から診療を行っています。

- ①がん治療前(手術、化学療法、放射線治療)の心臓の状態確認
- ②がん治療中あるいは治療後に出現した心不全や血栓症などの診断と治療
- ③すでに心臓病を持っている患者さんのがん治療における心臓病悪化リスクの判定

心電図(安静時、運動負荷)、心エコー、血管エコー(下肢静脈エコーなど)の他、冠動脈CTや心臓MRIなどを行いながら、安全にがん治療を受けていただけるよう、がん診療科と連携しながら、がん診療のサポートを行っています。



# 人工知能を有する統合がん臨床データベースの開発 (前編)

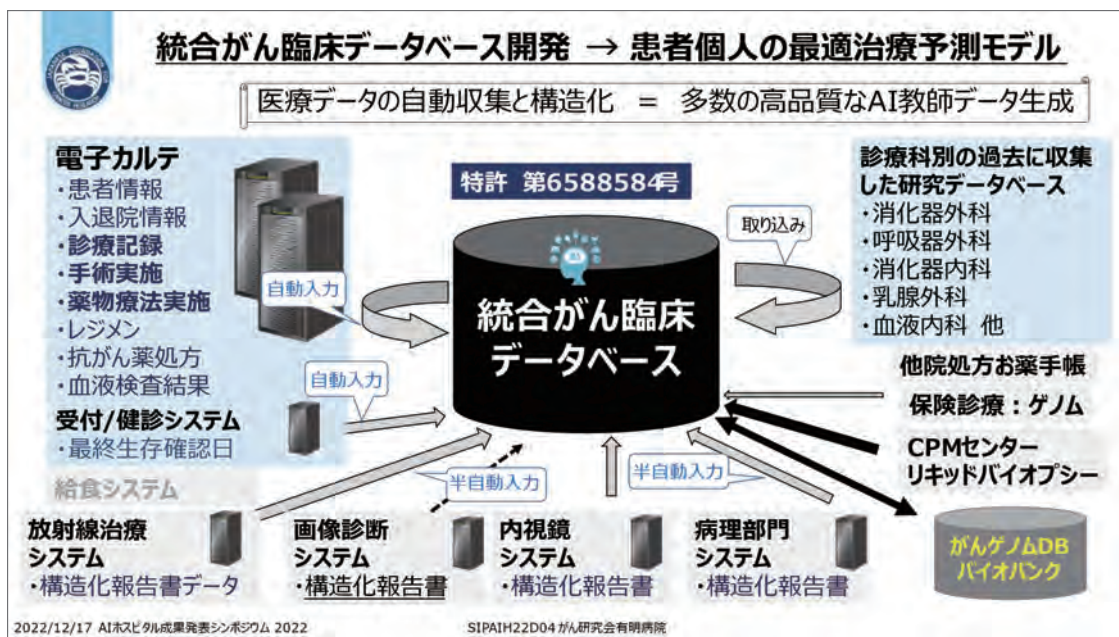
がん研有明病院 医療情報部 小口正彦 鈴木一洋 川崎健一 笠原あや菜 高橋輝

医学研究の話題で読みにくいかもしれませんが、未来医療を創る準備ですので、どうか御目通しください。

高度化するがん診療の医療情報データ量は加速的に増加し、知識や経験が豊富な専門医であっても対応に労するようになってきました。ヒトが膨大な情報を整理し記憶して利用できる限界を超えつつあります。そこで、2016年から「統合がん臨床データベース」を開発し始め、病院情報システムのネットワーク内で恒常的に質の高い研究資産を作り続ける体制を構築してきました。医療者を直接支援することで、間接的に患者さんのためになるように努力しています。これを基に、2019年からは戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)「AI (人工知能) ホスピタルによる高度診断・治療システム」に参加し、病理診断支援 AI・医療安全など医療 AI の開発も進めています。

統合がん臨床データベースは、次のような特徴があります。

- ① 手作業でデータ収集する必要がなく、診療データや検査値が自動転送されて、必要な構造化が自動的に行われたうえで、対象データが保存・更新されます。
- ② 従来は、外科・内科など別々に診療科で管理していた様々なフォーマットの診療情報データを、病院内の全診療科一元的に統合しました。
- ③ 患者さん個別に最適ながん診療を検討するために、身体的状態・既往症・画像診断・病理診断・治療内容・治療後評価・追跡情報・有害事象・栄養管理などの多くの臨床データを構造化した状態で保存できています。
- ④ 医用画像デジタルデータやゲノム診療データ等と連携して容易に取り出しできます。



## 参考文献

- 1) SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) AI ホスピタルによる高度診断・治療システム <https://www.nibiohn.go.jp/sip/>
- 2) 鈴木一洋, 笠原あや菜, 小口正彦, 集学的がん診療に特化した統合データベースシステムの開発, 医療情報学 38, 4:227-233. 2018
- 3) 小口正彦, 鈴木一洋, 佐野武 がん研有明病院における AI ホスピタルの取り組みー人工知能を有する統合がん診療支援システムの開発 医学のあゆみ 282(10): 932-937 2022

## がん研有明病院

## 部署紹介

第51回 先進がん治療  
開発センター

がん研有明病院 先進がん治療開発センター 品質管理部部長代行 藤崎 誠

「先進がん治療開発センター」は、がん研究会で実施される治験<sup>1</sup>や臨床研究などの研究実施支援を行っているがん研有明病院の部署です。

がん研究会では基本理念に基づいて、診療のみならず数多くの研究を行っています。これらの研究には患者さんからの検体（組織や血液など）や診療情報の提供、開発中の薬剤投与や手術手技を受けていただくなどの研究への理解や協力が欠かせません。そのためには、患者さんの安全や権利の確保、個人情報保護など、科学・医学的にしっかりした研究であるだけでなく、患者さんへの倫理的な配慮が必要となってきます。これらを確実にするため、研究の種類ごとに遵守すべき法令やガイドラインが制定されており、研究実施にはこれを遵守することが義務付けられています。また、研究の科学性を担保するために、研究毎に科学的に裏付けをされた手順、評価方法などを予め研究計画書に定めて実施する必要があります。

「先進がん治療開発センター」では、実際に研究をされる先生方が、法令・ガイドラインの遵守、並びに研究計画に沿った研究を具体的に実施していくために、以下の部署を置き、支援を行っています。



## &lt;がん研究会の基本理念&gt;

## 「がん研究会はがん克服をもって人類の福祉に貢献する」

この基本理念達成のために、がん研究会は研究所、病院およびがん化学療法センター等を擁し、

1. がんの本態と個性を明らかにし、がんの診断・治療・予防に貢献すると共に、生命科学の先端を開拓する。
2. 優れたがんの診断・治療を実践し、がんを治す。
3. がんの新薬と新しい診断・治療法を開発する。
4. がんの予防研究と一次・二次予防の実践により、がんの発生と死亡を抑える。
5. がんの研究・診療・予防の、国内および国際交流を促進する。

部署	主な業務
審査管理部	実施する研究が、研究の種類ごとに定められた法令・ガイドライン従って計画立案され、実施されているかを審査する倫理審査委員会 <sup>2</sup> の事務局業務
品質管理部	研究に関する手順等の整備・管理、臨床研究同意書の管理
臨床試験支援部	臨床試験コーディネーターを配置し研究計画書に詳細に定められた手順での研究実施の支援、並びに研究に使用する薬剤等の管理
企画戦略部	がん研究会の研究者が主導する研究計画の立案・研究実施のマネジメント・統計解析・研究報告書の作成などの支援
TR支援部	医師が臨床研究のための遺伝子解析などを行う実験設備の管理・運用支援
医療機器開発部	新たな医療機器開発のため、企業との共同研究等の推進

現在、がん研有明病は、がん専門の病院としてより良い治療を患者さんへ提供をするための研究実施体制を拡充していくことを病院の1つの柱に据え活動を開始しています。その一環として、2022年12月には、これまでの治験倫理審査委員会、および医学系研究倫理審査委員会に加え、新たに厚生労働省から認定を受けた認定臨床研究審査委員会<sup>3</sup>を設置し、審査管理部に審査委員会事務局を置くことになりました。がん研究会の基本理念の実現に向け、先進がん治療開発センターとして益々研究支援に注力して参ります。

今後の、当センター活動にご理解・ご期待をいただければ幸いです。

1 新しい医薬品の製造販売許可を厚生労働省から得るための申請資料となる安全性・有効性のデータを取得することを目的とした臨床試験。主に製薬企業が実施する治験へ参加していますが、医師が主導して実施する治験もあります。がん研有明病院で実施している治験については当院ホームページでご紹介をしています。 <https://www.jfcr.or.jp/hospital/examination/research/underway.html>

2 がん研有明病院のホームページに当センターと倫理委員会についての紹介をしています。 [https://www.jfcr.or.jp/hospital/department/facilities/new\\_medicine/index.html](https://www.jfcr.or.jp/hospital/department/facilities/new_medicine/index.html)

3 厚生労働省の「認定臨床研究審査委員会申請・情報公開システム」にがん研有明病院の認定臨床研究審査委員会に関する詳細が掲載されています。 <https://jcrb.niph.go.jp/applications/detail/298>

# 寄稿

この度の執筆は、「つながる7レモネード」のグループを代表して、小児がんサバイバー久保向日葵さんのご母堂久保知世さん、同小児がんサバイバーの北東紗輝さんからいただきました。



本団体は、2000年、小児がんの一種、神経芽細胞種を患った米国の少女が始めた活動に倣い、レモネードスタンドを開催し、オリジナルグッズを返礼品として寄付を募り、小児がんについて知ってもらう、小児がん治療・研究を推進するための支援活動を行っています。グッズのデザインをされた久保向日葵さん、上にあげた北東さん、松村将吾さんから小児がんサバイバー3人が代表になり活動を始められました。

【お問い合わせ】  
tsunagaru7lemonade@gmail.com

HP : tsunagaru7lemonade.wordpress.com  
facebook : つながる7レモネード  
Instagram : tunagaru7lemonade



## 一緒に病院で過ごしてきた仲間と“つながる7レモネード”

- 小児がんといっても様々ながんがあり、治療、経過も人それぞれです。これから、一例として娘の治療の経験を交えて小児がん治療の取り巻く環境についてお話しさせていただきます。

娘は髄芽腫という脳腫瘍を小学4年生の初夏に発症しました。最初に訴えた頭痛、嘔吐からみるみる病状が進み1ヶ月で入院となりました。頭痛、激しい嘔吐、片目でないと両目では二重になって見えないといった症状がありましたが、全て脳圧が高いことによる症状だったのです。紆余曲折ありましたが、町のMRI機器を持った脳神経外科で見つけて貰え、すぐに大きな病院での緊急手術となりました。手術は長時間、心配で心配で、生きた心地がしませんでした。ただでさえ大手術、ですが同時に告知されていた事もあったのです。衝撃を受けました。

がんは出来た場所を考えると髄芽腫、上衣腫どちらかだろう。髄芽腫は近年では治療法が確立されているが、上衣腫は治療法の進展がなく厳しい治療となる。がんは細胞を手術で取り、国立成育医療研究センターに送るが、現状では遺伝子検査はいつ行われるか分かっていない。検査は費用が莫大で、患者数が少ない小児がんは、回数行なっておらず、人数が集まるのを待ってする事になると。結果は早くておそらく今から半年〜一年後。それを待っているとがんに負けてしまう為、他病院の病理検査に出してそれに基づき始めます。(2017年主治医より)との事でした。

現在日本では、2019年6月より、がん遺伝子パネル検査が健康保険の適用対象となっています。その患者さんが持つがん遺伝子変異の組み合わせが明らかになることで、患者さん一人ひとりにふさわしい治療を行うことにつながるといえるのです。この2年で、こんなに医療は進展しているのだと感じています。ですが、まだ、小児がんは患者数が少ない為、病気が分かっても、治療情報や経過の集約が難しくまだ適切な治療が受けられなかったり、研究がなかなか進んでいないのが現状なのです。この現状を知って頂くこと、誰かと共有して頂く事も、とても重要な小児がん研究支援と感じています。どうぞよろしくお願ひします。

話を戻しますが、娘は10ヶ月の闘病入院生活をピアケアに支えられながら終えて、現在15歳。この春中学校を卒業しました。一日、一年がかけがえのないものだと感じながら生活しています。(久保知世)

- 私は3才の時に脳腫瘍、9才の時に急性骨髄性白血病を発症しました。3才の時の記憶は無いので9才の闘病生活の事を書こうと思います。

私が入院していた病院には未就学児から高校生ぐらいまでの幅広い年代の人たちが入院していて、日中は病院の中にある学校、院内学級に行き勉強や他の患者さんと遊んだり話しをしたりしていました。院内学級が終わった後や休日は同年代の仲間と一緒にゲームをしたり、アイロンビーズをしながら悩みや入院中のグチを言ったりしていました。『この時間がとっても大切な時間でした。』無事退院することができ復学しましたが、なかなか学校になじめませんでした。そんな中楽しみは一緒に入院していた仲間と外来などで会って話すことでした。



そして、脳腫瘍の手術の影響で左半身麻痺が残っていたので左足の手術を中学3年生の時にしました。その時に入院治療をしていたひまりちゃんと、しょうごくんに出会いました。退院後数年たってリモートで再会した際に「つながる7レモネード」を立ち上げよう！と言うことになり今にいたります。何ヶ月も一緒に病院で過ごしてきた仲間とずっと繋がっていきたくて思っています。(北東紗輝)

# 紙飛行機

～友の会 会員便り～

## 早く安寧に暮らせる世の中になってほしい

私は1943昭和18年に命をいただき、現在79歳です。2歳の時に母と二人で呉市より広島へ「ピカドン」と私たちが呼んだ原子爆弾が落とされた次の日、8月7日に、薪燃料トラックで引っ越してきました。たまたま母は8月6日に所用で爆心地から2キロ離れた広島にいたので被爆し、両方の耳から出血して頭が割れるほど痛いと言って聴覚障害者となってしまいました。そんな状況下にもかかわらず、母の二人の姉がいる牛田町（広島市）へ私の手を引いて様子を見に行きました。案の定、屋根は吹き飛ばされ惨憺たる状況で瀕死の怪我を負った二人の顔はフーセンのように腫れあがり、その後の病院の診察で血液のがんである「白血病」との宣告を受け、しばらくして天国へと召されてしまいました。今は、平和記念公園で眠っています。

私の愛する気丈夫で医療に従事していた母も被爆の影響で、がんによる心臓血管障害・糖尿病等…いろいろな病と闘いながら64歳で他界しました。海軍大尉であった父は、呉軍港で終戦直後に進駐軍の車事故で亡くなり、私と年の離れた姉二人と母の4人の生活となりましたが、やがて姉たちは結婚して家を離れ、母と私の二人の生活が続きました。

今回は会員のご友人より投稿していただきました

会友 岡保 益世 みつよ

一方、事実は小説より奇なりと云う言葉がありますが、私の大切な夫も中学2年生の学徒動員で呉より広島に行かされ、少しの休み中に原爆の直爆を受け、“お化け”とか“移る病氣”等…と云われながら白血病の病魔と闘い続け、その後、「原爆症」の認定を受ける運動に参加して勝利を得た時以降は、会社勤めをしながら生涯の貴重な体験者として関係組織で語り継いでいきましたが、一昨年88歳で天寿を全うしました。

原爆被害者家族の病魔との闘いの一部を述べさせていただきましたが、昭和20年は私にとっては一生で一番長い年です。いま世界は、グローバル時代となって小さな出来事でも一瞬にして情報が世界中に広まる時代となり、また、世界中がいつまで続くかわからないコロナ感染症対策に追われる現況を見聞きする毎日ですが、誰でも安寧に暮らせる世の中に早くしてほしいと願う今日この頃です。



原爆死没者慰霊碑  
(公式名は、広島平和都市記念碑)

## 和風チキンハンバーグ

### 材料（4人前）

鶏ひき肉…250g  
玉ねぎ…中1/2個(みじん切り)  
パン粉…大さじ8杯  
牛乳…小さじ4杯(約20ml)  
卵…1/2個  
塩・こしょう…適量

### 【和風ソース】

しょうゆ…大さじ1杯  
酒…小さじ2杯  
みりん…大さじ1杯  
砂糖…小さじ2杯  
だし汁…大さじ1杯程度

### 【付け合わせ】

アスパラ・人参など  
お好みの野菜

### 作り方

- ①みじん切りにした玉ねぎを少量の油でいためて粗熱を取っておく。
- ②付け合わせの野菜をゆでて準備しておく。
- ③★の材料をボウルでよく混ぜ合わせて、4等分して丸めておく。
- ④③を180℃のオーブンで15分ほど焼く。熱したフライパンで蒸し焼きにしてもよい。
- ⑤別のフライパンに【和風ソース】の材料を入れて火にかけて煮詰め、ソースを作る。
- ⑥ハンバーグを盛り付け、付け合わせの野菜を添え、【和風ソース】をかけて仕上げる。

## がん研有明病院 栄養管理部

### 一口メモ

ハンバーグを焼く前に1時間程度冷蔵庫で寝かせると味がなじみます。フライパンで焼く場合は、表面にほどよい焦げ目がついて中心までしっかり火を通しましょう。最初に強～中火で焼き、裏返して蓋をしたら弱火で10分程度火を通すとふくらみ仕上がります。



## がん研有明友の会 現在の状況

節分を迎えたとはいえ、雪国では引き続き大雪の情報が聞かれますが例年関東地方で雪の便りを聞くのはこれからです。コロナ感染の状況は相変わらずですが、見え始めた経済活動の動きに伴い感染拡大が起きないことを願っています。

本会では昨年暮れ、本文記事にもありますとおり久しく開かれていなかった理事会を開催いたしました。短時間で十分な議事審議は出来ませんでした。会員状況報告及びホームページでの会報記事公開等を話し合いました。

会員数については、一時1000名を超えたもののその後伸び悩みがありましたが、このところ病院の健診センター、入院時に配布される入会案内などを見て入会下さる方が増え一定の会員数が維持されております。

会報については、発行3か月後に記事全文がホームページで読めるようになりました。昨年暮れに第54号の公開を行い、今後は会報発行毎に前号を公開する予定です。

コロナ感染が伝えられて以来、講演会、懇親会などの開催もありませんが、一堂に会すること、顔を合わせることもなくとも、皆様への情報提供、ご相談に応じるなど出来ることはあろうかと思えます。色々工夫しながら会の目的達成のために活動を進めてまいりたいと思っております。

## 有明の風 表紙の写真について

この度の写真は、会員桑本洋様によるものです。いつも素敵なお写真をご提供いただきありがとうございます。

タイトル：「小さな土の場に、毎年咲いてくれる福寿草の2輪」

会員の皆様からの写真をお待ちしております。ご提供いただける方は友の会事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

## 会員継続について

年度末が迫ってまいりました。現会員の会員期間は令和5年3月末日で満了となっております。別にご案内をさせていただいておりますので、引き続きましてのご継続よろしくをお願いいたします。

## この一冊

### チーム医療推進協議会発行

### 「マンガでわかるメディカルスタッフの仕事」まんが冊子第15弾「精神保健福祉士」他

今回のご紹介は医療専門職団体を主メンバーとするチーム医療推進協議会発行の医療専門職紹介の冊子です。

医学が進歩し医療はチームで進められるようになっていきます。がん医療に限ったことではありませんが技術専門職の方々が重要な役割を果たしております。がん患者さんに対しては近年精神的なケアが重視されていますが、先に同協議会から発行されたまんが冊子第15弾で、その役割を担う精神保健福祉士が紹介されており、前第14弾では細胞検査士が紹介されています。その前第13、12弾では診療放射線技師、診療情報管理士、初回の理学療法士まで全15職種の紹介冊子が発行されています。

まんが冊子としての紹介は、若い人にその職を理解いただき職に就くことを目指してほしいとの目的もあるように思われます。冊子入手につきましては同協議会のサイト <http://www.team-med.jp> より「まんが冊子申込票」をダウンロードしてご購入いただけます。



各冊子 税込200円

## 有明友の会 入会のご案内

有明友の会は、がんで命を落とさないようにするために、がんに関する知識を深め、情報を共有し、がんを気をつけよう、がん研究の支援により、進んだ医療が受けられるようにしようということを目的にしております。

その活動は、年4回の会報発行、公開講座の開催などの他、日本で最も歴史のあるがん研究会の事業支援をすることとしており、年会費は5,000円（個人、一口）となっております。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

がん研有明友の会会報 発行元・事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31 がん研有明病院内 TEL: 03(3570)0561 FAX: 03(3570)0562

HP: <http://ariaketomonokai.org> E-mail: [tomonokai@jfc.or.jp](mailto:tomonokai@jfc.or.jp)



◀友の会ホームページ